

## 野生動物写真家という職業



2001年大学院にいた私は研究やいろんなものから逃げて、博士号をとらずに中退した。小さい頃から野生の生き物に興味を持ち、研究者になりたいと思っていたが、その道から外れた。しかし、野生動物を追いたいという気持ちからは逃げ切れなかった。それ以後、今も他の生きる道を探し続けている。そして、野生動物写真家という肩書きを持つに至った。では野生動物写真家として生きられるのか？という正直言って、まだ私にはわからない。まだ実験中である。研究者としてではなく、それでも野生動物を追っていたい一人の人としての、その実験の過程を赤裸々に語ることで、野生動物を追うということについて語り合いたい。

### 秋山 知伸 (野生動物写真家) AKIYAMA Tomonobu

2001年に京都大学院博士課程単位取得退学。生態学を学ぶ。卒業後はフリーランスとして各種の野生生物調査に携わる。2012年から2年間、ウガンダのアヤゴ水力事業の環境影響評書作成のためJICAの専門家として派遣される。その他に、野生動物写真家、ASAHIWEEKLYのフォトジャーナリスト、国内外の自然を案内するツアーガイドもおこなう。翻訳書に「生態学（京都大学学術出版会）」。著書に「ネコ科大型肉食獣の教科書（雷鳥社）」など。

Date:

**March 2<sup>nd</sup>, 2020**

**14:00-16:00**

Venue:

**Science Seminar House,  
North Campus, Kyoto University**



For more info:

<http://www.wildlife-science.org/ja/buddha-seminar/20200302.html>